



倭漢朗詠集卷上

春

立春

甲子

春興

春初

子月

長樂

二月

桃

暮春

三月盡

國二月

當

霞

雨

梅

紅梅

柳

花

落花

蹴鞠

款冬

藤

夏

更衣

首夏

夏夜

端午

納涼

晚夏

花橋

蓮

郭公

螢

蟬

扇

秋

立秋

早稻

七夕

秋興

秋晚

秋夜

八月十八夜

月付

九月九日

菊付

九月盡

女郎花

秋

蘭

槿

前栽

雁

雁付

虫

若

露

榜衣

冬

初冬

冬夜

藏春

爐火

霜

雪

冰

春付

散

佛衣

此詩上之句半
 門也...
 有通則...
 歡也...
 池凍...
 柳...
 天...
 柳...
 柳...

春

五言

迎候階用...
 公衆億

將希...
 萬一茂

池凍東...
 在泉元方

...
 白居易

柳...
 白

...
 良春道
 紀貫之
 壬憲筆

早志

今日不知...
 先達...
 東...
 保胤

之林軍部已異
 志應如厥人奉
 氣齊風抗彩柳
 庭增氣色晴沙
 雲々々々々々々
 山風よこ風もの
 みもせむのそ
 春興
 花下
 紀納言
 都良香
 野相公
 保胤

野芳花草如沙地
 近源流乱如天
 秋酒家如秋
 山枕漫移桃月曝
 花柳风宛转
 名所展为红绿
 林中花满时
 望秋夜月家
 田詩酒春风
 紀存名
 劉禹錫
 白々
 野相云
 菅三品
 里是青

百歩のちやんかゝるやうな所をくぐる赤人
喜ぶといふてゐるが、表裏の心はけさるゝ人か忠峯

第一 諸君 共 同 惜 取 之
 (ソレヲテハ) (ヲ) (ニアラムニ) (フミク) (ヲク) (ノ) (白)

夢のまじりて花のさそふをうづ海 躬恒

倭松樹心摩孺習風霜之強犯也

菜菔面喫ハ朝氣味ヨク
充調

傍松根心磨孺中牟之翠満手

拍梅^ラ花^ハの^サ挿^サ頭^メ一^ニ冊^ニ之^ハ書^リ名^ニ

お目上りよきあつし御息の娘お松もそやあやの親とまはぬ
御のひともう時をうよま雲のありともおのれあはれとひま
る年まゐるはれつ松もさうよりお松ひれくさうやん

若菜

野中花葉世事推之惹公極下

和義作人属之義指

[illegible]

三月三日對挑

明詠旨上

人更更少时须惜年不常春酒莫空
劉伯章知今日好夜喜言又不言何
三月盡
爲春之不強春之人寂寞賦以風不
宮風起花蕭索
竹院老閑清永月花寧我醉之強老
惆悵春歸尚不知來否花六柳黃昏

國云

今^カ之^ル國^{タニ}在^ニ春^ニ三^ニ月^{トウ}判^シ者^ニ金^ニ陵^{ミチ}厚^ニ款^ミ
 歸^レ新^ニ秋^ニ寓^ハ吏^ニ追^ニ尚^{トウ}於^シ孤^ニ寒^ニ之^{ミチ}海^ニ將^ミ林^ヲ
 蘇^フ蘇^テ字^{ウハ}邵^テ翻^シ於^{ホニタリ}一^ニ月^ニ之^ニ款^ニ
 今^今年^年土^土有^有春^春
 序^序歸^歸順^順

同公三月三日也
周奉公の御年
とて心もあつた曲
ふれまひに
はやくと書
東の夏大候
とめふれ所
ふ女主づうびく
みかゝるもいひ
とは盛のて
まゐぬたよ
詩と心もそほ
とのひあり
桃は心花をの
さうびらうや
曾思ふにか
けり伝とまこ
嬌々ふらう
あつたつた
言唇史記發
まあり安ん
桃のすうたさ
なごみりとせ

花梅根無盡悔馬那入在定延那
 寫
 鶴沈吟石后約且常未出遺實五容
 謝家若村寫吟石后幕拉出幾度
 花堂多骨兒石后幕拉出幾度
 咽壽山寫吟石后幕拉出幾度
 甚頭乃酒常吟客水而石后幕拉出幾度

萬色誘^ヒ来^リ花^ハ下^ノ草^{モト}色^ニ爲^ル獨^{コウ}面^ニ粧^レ木^ス造^ス
 感^メ同^ニ類^ヲ於^ニ求^ム離^リ鴻^{コウ}之^ノ鴈^{コウ}之^ノ夜^ス春^ノ結^ス
 會^ミ實^ニ氣^ニ在^ニ境^ニ況^ニ新^ニ少^ニ英雄^ニ之^ノ伴^ニ晚^ニ晴^ニ
 悲^キ娘^カ之^ノ神^ニ祐^ク收^テ精^ニ練^ニ乱^ニ於^ニ舊^ニ柏^ニ周^ニ郎^カ
 之^ノ碧^{カサレ}頻^リ動^ニ願^テ同^ニ因^{ミル}於^ニ祈^ラ記^ス
 新^ハ語^ハ如^ハ今^ニ穿^ウ衣^{カチ}宿^{セツ}雲^{キウ}而^ニ巢^ウ力^ハ後^ニ屠^ニ春^ニ空^ス
 而^セ樓^{ロウ}月^ニ夜^ニ衣^ニ同^ニ世^ニ中^ニ教^ニ梵^ニ行^テ表^リ音^{コハ}
 同上安官三品
 澄白合管取相

[illegible]

震光曜後殷子為孝免暗不嫌此糖

鑽^{キリ}油^{ラウ}草^{ソウ}只^シ三^三分^分許^リ跨^{一、五分}樹^キ霞^ニ曉^ハ手^リ脛^ニ餘^タ

天保九年、
 赤入
 魚盛

或^{ハタレ}出^ニ死^ニ下^ニ滑^ニ滑^ニ臺^ニ子^ニ之^ニ忍^ニ耐^ニ并^ニ發^ニ因^ニ

蜜雨教絲

暗動藩邸之恩

長樂鍾行旅書就池柳色雨亭深

養ヤ以ニ自テ爲ル親ハ父コ母ノ洗ス衣ヲ宜ニ辨ス茶ヲ若シ長ク

新用初陽調馬先攻付落幕法

斜脚暖風先那處暗夢初白來晴社

[illegible]

梅

一の八開帳か
 いふ老民に
 ちきひくちり
 ちて書ハモ欠
 てとすまふ
 改ちくち国三
 月此節のハ今
 年ハ未だつり
 是の年うれど
 々ハ地々死と
 ちハこけん
 々のチかき
 心金路ハ建
 康府ノち
 地類ハは序
 地雲ハハれ
 ちハ翻
 ぬちつり
 花梅取罪上の
 序れハハれ
 羌ハハハれ
 ちハハハれ
 ちハハハれ
 ちハハハれ

白河^{ハカ}梅^{ウメ}浮^{ウカ}洞^{ツツミ}水^{ミヅ}菜^ナ花^{ハナ}新^{ニホ}柳^{ヤナギ}出^デ珠^{タマ}場^バ
 梅^{ウメ}花^{ハナ}茅^{チガハ}雪^{ユキ}飛^{トビ}琴^{コト}上^{カミ}柳^{ヤナギ}也^{ナリ}和^ワ煙^{エン}入^{イル}酒^{サケ}中^{ナカ}
 竹^{タケ}重^{オモシ}臘^{ロウ}名^ナ新^{ニホ}封^フ表^{ヒョウ}倚^{ヨリ}縵^{マン}云^{クモ}風^{フウ}未^ミ不^フ先^{サキ}
 八^{ヤチ}嶺^{リョウ}套^{タイ}々^々雲^{クモ}生^ナ来^キ但^タ恨^{コン}不^フ度^{タク}万^{マン}株^{ササ}梅^{ウメ}
 離^カ言^{ゴン}春^{ハル}也^{ナリ}遠^{エン}東^{トウ}到^{キョウ}露^ロ暖^{ナン}南^{ナン}枝^シ花^{ハナ}始^シ開^{カイ}
 青^{セイ}珠^{ジュ}珠^{ジュ}出^デ陶^{トウ}門^{モン}柳^{ヤナギ}色^{シキ}玉^{ギョク}妝^{ゾウ}成^{セイ}度^{タク}就^{ジュ}梅^{ウメ}
 赤^{セキ}人^{ニン}

揚合^{ハフ}鶴^ニ舌^テ道^{ケイ} 紅^マ氣^リ江^エ 異^モ疎^テ花^ケ 芳^ヲ芳^ニ芳^ニ芳^ニ
 淡^ニ子^シ斜^セ嬌^ケ仙^リ方^ハ之^ヲ雪^ユ媚^モ色^シ濃^ニ香^ヲ芳^ニ
 正^ニ道^ニ

郁妓之妬妬イタタリヤ
妬妬ユツル
妬妬ニホヒラ

有也易分殘雪底情壯辦久功年

仙^ニ洞^{ナウ}風^フ生^{ヒル}雲^{クモ}散^{チル}霞^{カサミ}野^ノ煙^{エン}火^カ暖^{ナグ}木^キ初^{ハジメ}花^{ハナ}

表よりて張ありきん梅就みより番よりあふんをより
及よりてあひもいしん梅花はひよりあふんをより
文庫

月

去人の下すこと
又詩のふいふ
れ酒とすめなそ
害て煩々
中より若く
さうする人
他のはとわつた
てるとくまを
る清浄に
の心けり
感同氣初相来
一此の内宴の物
の序に愛れん
の巻法よひさ
あつたとき
月形ありて
ある佐の仲に
三ツキ
港へは越えぬ
さて僕の昭帝
れた新りにて
は素より誠心
其海やいと
舊拍分ち拂

柳

傳正堂有知各序紀

花付唐文

閑居賦
張讀

池也信々藍深水花光燭々火燒春
通見人家花便入不諱貴賜与就深
營目營風之促子願方願之玉深枝
深深表裏一入再入之知
新偶水無心濃艶吟号波愛也新偶
花不依將漾激号歡動脣
欲偶之水則漢女施粉之晚清瑤欲

偶之花之蜀人淫父之神繁爛
鐵目何絲唯善兩裁無定樣任春風
花苑如錦牙濃粧鐵若春風來五箱
作鐵春風接上乃非唯裁也鐵若芳
眼貪蜀都裁殊神耳快秦城調樂事
よのゆかにあぐさるれあうりきけああらハのけり
りやのあふもかきけくふらひまひのらそあふふ
みののまふあふふふふふふふふふふふふふふふふ

顧

蹴踏テシチヤクメ
 晚榮尚用紅スライナミラク
 蹴踏秋房物結白芙蓉ノベガサ ヒメテムスブ
 新遊人欲尋春把酒食家共折梅ハスルグチ テトラ下ヤニヨク ミハ ベン エカヲロ
 歎冬コトウ
 然者雖黃天有春意歎冬誤後暮春風マヤミチホコッホ
 書寫有卷相收拾紙盡又未平行ソウニ テニキ スゼウ シニ ソノ タ
 わりやのやへの山花も今更らるゝのうめんまのこころ

良詩一首

藤

帳望慈恩三月西葉夜沈鶯閑々

空尊佛等衆衣也此光光也

 シ
セウ
フ
ニウ
バ
シ
エ
イ
ロ
ベ
コ
ツ
ワ
ウ
ス
ル
ケ
ニ
タ
イ
ラ

紫菀トウ 苧ユ 藏花ソコニサニク 芍藥スイ 牡丹チクノケツリ 煙ニ 中ホ 暮チヤク 香コ

原をたうたてこふか
 藤原のうたゆいふか
 こふたふたのうた
 こふたふたのうた

夏

更衣

去れぬと卯月朔日
ふりてなり

[illegible]

生セウ夜エハ歌スニツ家テカ
人ナ著ラセ宿シユク硯ギョウ造サニ花ニク色クをヲ研リ

荷夏カ

班頭兼班主統轄庶務數人互用

蒼生石西經石出池心小蓋復

夜

風吹枯木晴天雨月照平沙夏夜涼

ては傳心あり
のそと岸はら
きればなりあり
混とらばす
うろて花は
花上苑と
上苑苑は漢の
武帝の代
ひびきき
のゆれはら
ききき元阿
公をれらに
うらやまびき
山と斜月と
ゆめと歳ハ
あやううう
也漢といふ水
さんあやう
火焼春はら
光あのと春
のふゆとく
とゆめとさ
百箇風一冷
院の臺乃

[illegible]

青苔地上消疎雨疎樹陰前
 夜涼
 諸葛漢雲迎爽清風襟著
 漢先秋涼
 不是禪房無轉劫但能心
 靜即身涼
 班婕妤團團之府代清風
 步長念
 燃照玉振涼之珠尚汝月
 步自持
 外見新葛陰水涼以吟古
 集和涼詩
 池冷水無三伏愁松為風
 立一聲好

ありしやとてさびしうとてふらふれあつたを海よりさる所の花
 志づらうとて林をそかきつてあつたそのさるしとてさ
 ねむりのいそがしきとてさびしうとてあつたなりありひきつる

喜度法師

竹身法合偏良各水推風涼ふ為秋

[illegible][illegible]

風前光采萬條疎水簾殘花舞
 葉落紅翻雨砌丹泥深香散金風
 煙雨暮色清風曉水冷紅香白
 岸竹枝低垂馬嘶溪橋東動是
 綠何處更覓其心身役其音春
 鐘為部月佛為眼知汝花中
 鐘為部月佛為眼知汝花中

風前光采萬條疎水簾殘花舞
 葉落紅翻雨砌丹泥深香散金風
 煙雨暮色清風曉水冷紅香白
 岸竹枝低垂馬嘶溪橋東動是
 綠何處更覓其心身役其音春
 鐘為部月佛為眼知汝花中
 鐘為部月佛為眼知汝花中

良言直上

良僧正

早秋獨居詩渾

發

白

五

...

秋堂照膽賦紀納言

直隸

スルニ

三

蟬

白永天

ル
グ
レ
ウ
ヲ

馬下御茶番花柳傳の巻
 今年冬例物之断言も彈止る之出
 歳去身束縛ふ愛言言秋後をわろ
 なりけりものこそあのみまじきあぞせよのこゑはあやめ
 らむとらんよふとあらぬひそく秘するものなりき
 府

盛衣ふ清雪決ひ雪風門秋生
 裏衣月入懐中

白米夫

立秋

セウ サツタレ リヤサ
菊 瓶 清 風 ト スイ ヒ シ カ ケイ ク メ
ニハトリ ヤウク、ザスル アーダノ イロ スクヒ リガ ツチ ニ ハシ セイ ビナリ
鶴 湯 茨 田 秋 色 ノ 雅 常 致 意 脱 羣 衆
林 葉 ぬ と 名 方 け る な が ね 凡 の 者 あ そ ぢ り ぬ ぬ 秋 行
うらけい 物 を 出 し て うらけい わる せ 始 と なる こと 人 龍 定

早秋
 但
 櫻
 失
 秋
 七夕
 懷
 二

將明頻驚涼風詠之聲
 露凝別園珠露零落殘粧未底
 風吹昨夜夢餘涼及明初涼未禁
 去年波浪處處行船後涼月秋清
 詞龍激波汗且遺玄期行丹欲為媒
 大河之水何處流
 下也一水何處流
 年每一水何處流

秋興

小野義村

山崎くう面
孫招ハ校根の
木ハ風ハ
迎の風ハ
孤山寺ハ
とゆわく
夜ハ花梅の
まハ冷と
さハ
思ハ
あり
の
飄風ハ
風ハ
老ハ
也
永
い
め
あ

林間燐酒焼お菜石上題詩佛
思森荒雲木冷病鮮清脫宿
底口時公地若祝中獨斷乞秋大
物及自堪傷客玄宜將愁字外秋公
中牙感恩在秋太多夜南村良物雪
第一傷公何也寂行風鳴葉月四前
蜀茶彫冠は花味我練新傳枝雪夜

寄真
展
同
秋
月
風
水
相
思
夕
上
松
蒼
蒼
白
蟬
聲
滿
耳
秋

秋晚
秋の夕上松蒼蒼白蟬聲滿耳秋

秋夜
秋の夜長
母眠天不明
秋の夜長
母眠天不明
秋の夜長
母眠天不明

秋夜
秋の夜長
母眠天不明
秋の夜長
母眠天不明
秋の夜長
母眠天不明

生に待渡神女秋星河夜
驚子揚中霜月秋未只病一人長
夢方夢方人定城秋月
萬花別喜孤舟多稀柳受頭方里公
八月十五夜付丹
奉向之二十餘室深中浦漢

八月十五夜

蔡甸之千條黑漆砂補漢之

三才文選

十五夜賦

公采億

鐵佛機中と辨相心々客持名石上

三
文
被
仲
新
月
起
二
千
里
外
故
人
公

スウ
山
ヤウ
テウ
ユキ
ス
カウ
テイ
ク
ク
ク

十二迎^{クワク}申^ナ無^ナ務^ムお^ハけ^ル夕^ハ之^ス好^コ子^シ万^マ里^リ
八月十五夜説日
紀昀言

外皆兼控官家ノ光

明詠齋

七

慈浪金波三五初秋風才含微寒
 自新河來輕霜半入道は暮夜雨
 岸の還送松上鶴渾難可無深渾真
 瑞池夜星尋常此夜清明玉不如
 金膏一洗秋風若玉還三更冷漢宮
 楊貴妃啼泣帝恩重更人去漢宮情
 水の面は明月もさかすま谷春を秋にさす中々なり

[illegible]

九月對菊

菊

菊 サウホウ ヒハ
 霜連花 雙三分 白菊 新花 一半 黃 オナリ
 小光花 中 油 此 花 此 花 更 更 花 元類
 風 陰 秋 菊 雙 花 之 後 凋 謝 移 紀綱言
 切 芝 蘭 之 花 敗 オナリ
 鄰 縣 村 同 皆 凋 屋 陶 家 吹 之 不 凋 葉 各相公

良言卷上

世三

初恒

五

父筆抄書の駒景綱海藏お茶茶
 山さの秋も書かたけゆも花の葉とていふあうも
 萬事あ秋のこころにとも物秋のゆひの露うそえふ
 兼盛

三

[illegible]

十四

曉露花鳴花^テ枝^テ紋^{クモモ}白^{コチ}般^{ツル}拳^{ナチ}打^{ナチ}一^{ナチ}時^{ナチ}情^{ナチ}

花頭更存南條物尤菊嘉蘭三女浪

技業並に氣平に雲掩る勿負最良

意不芳乎秋風吹白先敷

如漢女顏施彩滿似疑人眼淚

テソ カク シ カラハシ ア エニ キカ シ ス
 我輩建室秋法鼓多郎無拒曉枕薰

禮

松樹中平欽名松槿記一因自為棠

氣^テを^ス不^ニ尚^ニ茲^ニ有^リ托^ノ展^レ之^テ彰^スと^スる^ニ

五橋新世夜書之花

あつふ作とてん秋舞は終まんちやう標のふ
標とてふをいふとてん人々も花をさるゝ月

剪裁セニザ

雨はくさあけを
 此長恨歌と
 落ししを
 中八野と年
 櫓と白米天の
 作と草ハ
 校のふり
 食育のま
 まに河は
 記丹六の
 はをて回野の
 まとまにう
 掬柳は
 八れとふた
 胡のふと
 六軍の
 の明空に旅

の言をきくやうて
おとよりの分
に思ふやうに
おれはちたさ
泰ふかしの
鯉あつて
りり
るもの澄みハ
明らけ
錦様中
相思ふ字
飾をゆるぎ事
とまこ燕若
葉と云はれ胡
事と云はれ
上ノ蕨武明
のふより久
らげの問答
妻秋はこれに
程と云はれ
うぶとせん
ふしとの歌
三つ夜中一
二重八重

[illegible]

キヨ
 ギヤ
 カメシサケ
 タタタタウタラ
 ジヤウ
 カルニ江相公
 ホニ セニ ヤスシニドヒナラ ナス
 林傍山行田建音
 カリ トンデ ケキ ラクニカク セア シニイハツラ ソウ ヲブルキニ キ
 石花院諸事元紙集巻牙書林成書棧
 ヘキ ガヲヨソホニセエルコト ナムニ多ラルトニ セイメグ ニキ ニス カノ官三編
 志主松平斜之権受美多紙教の事
 ウン ム ハハニ レカ キ
 雲元危叙羅本傳以指漂湘浪上舟
 あま風は初よりわひそとさあつたふつとくハエようん
 キ 油石
 サレ ヨウノキ ガーハナムニヒク ヲビ スイ メン ニ コウハ ダンベ キ
 山獨石乃斜事亭水而折架末唇巾
 都生印

虫
 切く晴る下鳴く渾身暮秋と
 婦人雨夜幽人耳
 雲をのり枯雪白き風枝来定馬橋
 山館雨内鳴自晴野亭風雲藏松雪
 叢鶴心遠風空晴雲危吟鷗月色重

[illegible]

るをいふといふ
りて菊ハ仙少
れ金魚ハ相
さうと云々
まハ菊ハ長生之
葉蕙思ひ花
枯魚ハは菊
のこひりのと
れる心ハ推察
果ハ云々ハ
くそ氣に
どぞと云ハ服
霜冬と血氣
のと云ハ菊の
花のさうなる
也九月坐
清酒ハ云々ハ穿
つたハ蕭殺秋
のすきありハ
景ハ雲何ハ
雲のいふと云
海の色ハ五

暮秋吟白

八月廿二日 正長夜子時 万色毎三時

月永南上

三

香風^{スミレ}月^{ツキ}沈^{シズム}如^ニ鏡^{カミタマ}夕^{タタミ}吟^{イナ}和^ニ我^ワ利^リ心^{シン}力^{リキ}
 風^{フウ}雲^{ウン}易^{ヨシ}向^{ムカフ}人^{ヒト}氣^キ暮^ク歲^{サイ}月^{ツキ}能^ニ返^{ヘリ}老^{ロウ}態^{タイ}也^ヤ
 ゆゑのあはれ海^{ウミ}うかまするこころをうけとるはこれなり
 烟火^{エンゴ}
 クワ^{クワ} ^{ハイノリヨク} ^{ムネ} ^{ラビュクスホウキウノコウロハ} ^{ハノミチ} ^白
 炎^{エン}疎^ス疎^ス明^{メイ}速^{ソク}火^カ焚^フ然^{ゼン}恐^{コウ}煙^{エン}在^ゼ困^{コン}和^ワ
 るニ ^{ムカフ} ^{ムネ} ^{ラビュクスホウキウノコウロハ} ^{ハノミチ} ^白
 看^{カン}盡^{ジン}馬^バ馳^チ空^{クウ}驚^{キョウ}獵^{リョク}風^{フウ}先^{セン}被^ヘ火^カ迎^{ヨウ}
^{ムカフ} ^{ムネ} ^{ラビュクスホウキウノコウロハ} ^{ハノミチ} ^白
 け火^カ夜^ヤ清^{セイ}花^カ樹^{ジュ}如^ニ利^リ本^{ホン}終^{シュウ}日^{ニチ}有^{ユウ}毛^{モウ}化^カ
^{ムカフ} ^{ムネ} ^{ラビュクスホウキウノコウロハ} ^{ハノミチ} ^白
 他^タ時^ジ能^ニ為^{タス}心^{シン}下^カ近^{キン}日^{ニチ}那^ナ離^リ歎^{タン}度^{タク}遠^{エン}
^{ムカフ} ^{ムネ} ^{ラビュクスホウキウノコウロハ} ^{ハノミチ} ^白

霜

▲家藏カザウといふもの
と静シヅカなり
▲金ナヒツが僅わずかハ
家の内レ僅わずか僕
也▲用思ヨウシ清海
花知目一サトク
あつて後でさへ
元虎タラシ海御
勝キリとぞ
りして
石塔ハ盛なる
心ハ黄飯ワウハン航と
ゑに花菜々を
ちこれの修しゆ
まづく
淨光ジョウコウかみ
心ココロ余派ヨウハと
手の木をあらう
也▲錦備林
わねは夢と書
樹杖ジュゾウのありき
藤巻フジマキ心ココロ弁物ヘンモノ
すまののみと云

[illegible]

霜如雪 氷消見 氷消漢 胡蜜雜 霜如雪 氷消見 氷消漢 胡蜜雜
 氷消漢 胡蜜雜 霜如雪 氷消見 氷消漢 胡蜜雜 霜如雪 氷消見
 氷消漢 胡蜜雜 霜如雪 氷消見 氷消漢 胡蜜雜 霜如雪 氷消見
 氷消漢 胡蜜雜 霜如雪 氷消見 氷消漢 胡蜜雜 霜如雪 氷消見

今、あつたつて、ちや海防のまゝにたのうと、又つてたのう

佛名

香火一炷燈一盞白晝夜礼仏を祈
名月神公常用火坑用合掌ふ図表

赤膚あかかわ
 霜しもの
 林也はやもたき
 天乃あまのみこと
 行書ぎょうしょ
 ハ雲也はうんや
 の名な
 凡のふつ
 の橋也はしや
 ハ所ところ
 ▲市ハいち
 ▲切きり
 吟ぎん
 の吟ぎん
 下▲晴はる
 ころろころろ
 新々しんしん
 来ハきた
 夕暮ゆぐ
 どの山このやま

思婦はあつちへて△秋葉の黄也△山嶺はうらと△山形分る能はるあり
 △野亭の雨迹のあつちへて△楓葉の赤色△冬夜の心△怨遠の夢と悲愁をうたふなり
 △凡そこの凡そといふやうに△時寒二句もいふ夜の心△麻衣金苔路滑り山寺の暖乃寒相
 いへり△人々みれば△食萍身△麻衣の心△隔あつたりと作る△愛するにわかれくく在席の
 可憐な面自心也九月三日の
 りあとの吟詠より△清涼義詩△秋の夜更の月光のうつろひと云△竹方竹好ま
 時より字作正北斗七星也△寒雲空けとよむ胡蝶の心をくさるる心と

[illegible]

